

令和3年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 4 年 5 月 23 日 作成

事務事業名	長寿祝金支給事業	外部評価の状況	事務事業No.	331 - 12
		なし		

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
福祉部	高齢介護課	総務係	主任	永田 優美	課長	今泉 正虎
施策体系	総合計画	政策	3	健幸・子育て		
		施策	3	高齢者が安心して暮らせるまちづくり		
		基本事業	1	高齢者を支える体制づくり		
	その他の計画	個別計画	-			
根拠法令・条例・要綱等	老人福祉法、飯塚市長寿祝金及び敬老祝品支給要綱					
事業開始年度	平成18年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	全部直営	補助金等の支給	なし	実施計画期間	-	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	老人福祉法第2条の基本的理念（老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする。）に基づき、長寿を祝い、多年にわたり社会の進展に寄与された功績に対する感謝として、節目にあたる77歳、88歳、99歳、100歳以上の方に、口座振込又は現金で、長寿祝金の支給を行う。					
対象	働きかける相手・もの	当該年度内に満77歳(8,000円)、満88歳(15,000円)、満99歳(20,000円)、満100歳以上(30,000円)になる方で、4月1日から9月1日（基準日）まで本市に住所を有している者				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	対象者に申請書を提出していただき、祝金を支給する。				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	対象者全員への贈呈				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
申請書受領件数	件	申請書の受付件数	2,521	2,395	2,185

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
支給者数	人	毎年度	2,524	2,398	2,185
説明	方向性	達成目標年度	実績	2,521	2,395
	維持	毎年度	達成率	99.88%	99.87%
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 2 高齢者福祉費	
	大 99 その他の高齢者福祉費	中 3 長寿祝金等支給事業費	他 0 事業		
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)
	正職員	0.32 人 2,522	0.34 人 2,787	10%の増減なし	0.32 人 2,623
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用短	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	会計年度 1級フル	0.15 人 406	0.08 人 233		0.10 人 291
	1級パート	0.20 人 343	0.20 人 401		0.20 人 401
	2級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	人件費計(A)	3,271	3,421		3,315
事業費	直接事業費(B)	31,458	30,461		29,787
	総事業費(A+B)	34,729	33,882	33,102	
直接事業費のうち	報償費	31,017	30,041	29,363	
の主な歳出内訳	役務費	435	408	389	
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0	0	0	
	国・県支出金	0	0	0	
	市債	0	0	0	
	一般財源	34,729	33,882	33,102	
その他( )					

**6. 事務事業の事後評価★**

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	市内の高齢者に対し、感謝の意を表し、長寿を祝福することを目的とした事業であるため、市が行う必要がある。
	目的の妥当性	妥当	多年にわたり社会の進展に寄与された功績に対する感謝として支給するため。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	節目支給で実施しているが、その年度の対象年齢の方に支給しているため偏っていない。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	支給に係る事務等は職員で行っているため。
	負担割合の適正化	適正	なし
	手段の最適性	最適	各自治会等で敬老会等を行っているが、市として実施している事業は他にない。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	対象者ほぼ全員に配布することができていることから成果は得られた。
	上位施策への貢献度	貢献できた	多年にわたり社会の進展に寄与された功績に対する感謝を行う事は、地域における高齢者を支える体制づくりに寄与するものであり、上位施策である高齢者が安心して暮らせるまちづくりに貢献できた。
	事業継続の有効性	ある	老人福祉法の理念に基づき、高齢者に感謝の意を込めて実施している事業であることから事業の継続は必要である。

**7. 前年度評価時の計画と実績**

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	申請書の記入ミスを防ぐため、申請書様式を分かりやすく改良をする。
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	なし

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

申請書様式を分かりやすく改良したことで、昨年度に比べると記入不備が格段に減った。しかし、記入不備がある申請書も一定数あり、改良後においても記入方法がわかりにくいといったご意見も一部あるので、工夫・改良の余地はある。

**8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★**

【成果】 昨年度から口座振込となったが、対象者2,398人中2,395人の方に支給することができた(99.87%)。多年にわたり社会の進展に寄与された功績に対する感謝の意を込めて実施している事業であり、今後も継続して実施していく。

【課題】 対象者が提出する申請書の記入不備(印漏れ、口座番号)により、事務作業が滞ることがある。全庁的に押印省略の流れはあるが、請求行為が伴うため、押印に代わり本人確認書類を追加添付させるように変更する方がかえって不備書類の増加を招く恐れがあるため、検討が必要である。

**9. 今後の事業の方向性と改善策**

成果の方向性	拡充 現状維持 縮小 休・廃止					評価区分	事務事業の方向性
		④	②	①			
		③	⑤		一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	
		⑥			二次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	
		⑦					
		休・廃止	縮小	現状維持	拡充		
コスト投入の方向性							

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策	申請書の記入不備を減らすべく、記入例や様式の工夫等の改良を継続していく。
コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策	高齢者を対象としたデジタル端末機器取得助成を行う予定であり、高齢者のDX化推進を加速するために、本事業のうち、特に77歳の対象者に対して、電子申請や地域ポイントでの祝金給付を検討する必要がある。

評価変更理由	一次評価のとおりとする。 経済効果を意図して市内で使えるカタログギフトにするなど、副次的な効果についても検討されたい。
--------	--